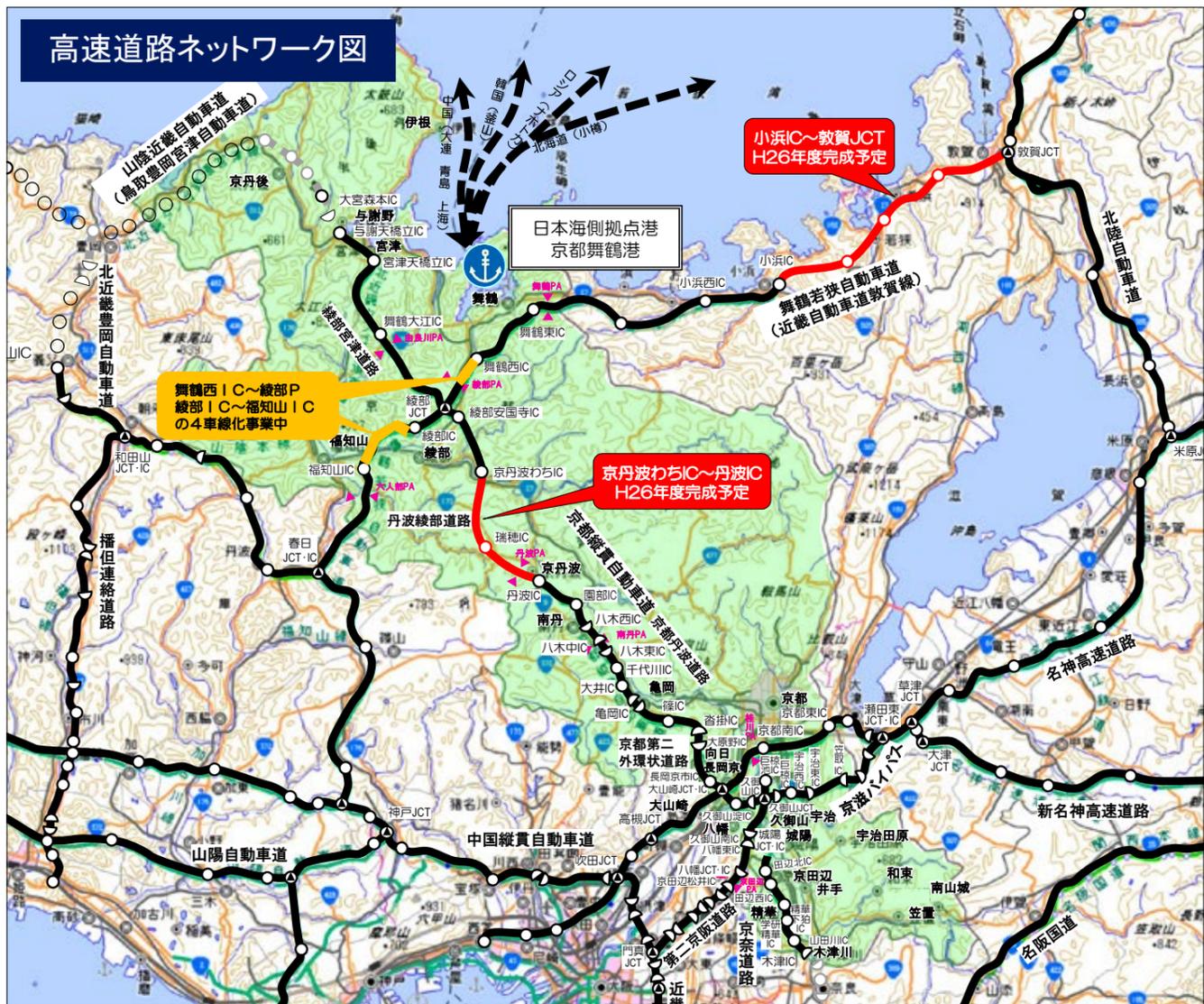


# 高速道路ネットワークの完成

## 活力あるまちづくり

シリーズ 市政の「今」。第3回は、平成26年度に高速道路ネットワークの完成によって、府北部に新しい時代の到来が期待されている中、本市の主要プロジェクトである国道27号西舞鶴道路や府道小倉西舞鶴線の整備、国道や府道とのネットワークを構築する市道、また、公園、住宅など、次代を担う世代にとって住み続けたい活力あるまちづくりについてお伝えします。



**高速ネットワークの完成による移動時間の短縮**

区 間	現在	H26年度末	総短縮時間
大山崎JCT～舞鶴西IC (80km)	75分 ⇒	65分	10分短縮 (13%短縮)
舞鶴西IC～敦賀JCT (85km)	100分 ⇒	70分	30分短縮 (30%短縮)

- ★北部地域から京都駅へのアクセス（京都縦貫、京都高速等経由）の向上
- ★日本海側拠点港（舞鶴港～敦賀港、金沢港）を結ぶルートが形成
- ★舞鶴と中京（北陸）圏域への物流・観光ルート（舞鶴若狭、北陸道等経由）



▲進みゆく高速道路網



▲第1期工事の完成した市営住宅三宅団地

### 人・モノの流れが変わる 高速道路網の完成

京都縦貫自動車道と舞鶴若狭自動車道が、平成26年度に全線開通する予定です。これにより、京都舞鶴港と京都市内および南部地域が高速道路で直結し、京都舞鶴港の利用率向上につながります。

そして、北陸方面へのアクセス性が大きく向上し、新たに中京圏が日帰り可能となることで、産業や観光圏域の大幅な拡大が図られ、活力あるまちづくりに向け大きなチャンスになると期待されています。

さらには、舞鶴若狭自動車道の福知山～舞鶴西インターチェンジ間の4車線化により、災害や事故などによる交通不能リスクが低減され、安定した物流機能を確保することが可能となり「海・港」を生かしたまちづくりに取り組む本市にとって、追い風となります。

### 東西市街地の一体化に向けた幹線道路網の促進

本市の主要プロジェクトである国道27号西舞鶴道路の用地買収が進められています。また、港と連結する臨港道路の整備についても、国・府

はじめ、トンネルや橋りょう、照明、のり面などの道路施設の点検を実施しています。

### 都市計画マスタープラン

誰もが住み続けたい魅力あるまちを形成するためには、道路、公園などの都市基盤やまちを健全に維持するための土地利用などが必要です。そのため、本市のまちづくりの基本的な方向性を示す「都市計画マスタープラン」を平成24年5月に改訂しました。これにより、市街化区域や市街化調整区域などを定め、秩序ある市街化を進めていきます。そして、都市計画道路の事業化や中心市街地の活性化など、利便性の高い効果的なまちづくりを行っていきます。

### まちに憩いと潤いを与える公園の整備

舞鶴自然文化園などの都市公園や市民生活に身近な「ちびっこ広場」などの整備を進め、施設や遊具などの安全確保に努めています。

また、中心市街地の活性化を見据え、東地区の八島公園の再整備や西地区における田辺城跡を中心としたまちづく

と連携を図りながら取り組んでいきます。

これからの新しい舞鶴をつくっていくためには「舞鶴はひとつ」として、東西市街地の機能的な一体化が必要不可欠です。このため、東西市街地を最短距離で結び、地域医療の再編や公共施設の集約化による効率的なまちづくりを行うためにも、府道小倉西舞鶴線の整備は欠かせません。このうち、白鳥トンネル区間については、安全性を確保し、渋滞の解消や緊急避難路としての防災機能の向上を図るため、4車線化の早期実現を目指します。

### 安心・安全な市道事業の推進

長年にわたり整備を進めてきた北吸森線の改良工事により、生活の利便性や安全性が向上しました。また、国道や府道とネットワークを構築し、円滑な交通の確保と防災機能の向上を図るため、引土境谷線、和泉通線、野原大山線などの市道整備を進めています。

さらに、子どもからお年寄りまで安心して通行できるように通学路などの安全対策をはりを進めていきます。

### 多様で良質な市営住宅の形成

居住ニーズの多様化への対応や市民生活の安定、社会福祉の増進を図るため、老朽化した市営住宅の改修や建て替えを計画的に行っています。平成24年に密集市街地の住環境改善として、市場上地区の住環境整備が終了しました。さらに、今年6月には、三宅団地第1期工事として63戸が完成しました。

今後も既存市営住宅の改善、建て替えを計画的に進めていきます。

### 次世代への継承

高速道路や市民生活に直接結びつく市内の道路、公園、住宅などの都市基盤について、次代を担う世代にとって魅力あるものとなるよう整備を進めていきます。そして、本市の豊かな自然や歴史・文化などの特性を生かしながら、多くの人が集い、にぎわう活力あるまちづくりを目指していきます。